.科目区分	専門分野Ⅱ	授業科目	成人援助論Ⅰ （循環機能障害の看護２）
講師名	吉本　晃子（６時間）	実務経験の有無	有
単位数（時間）	１単位(30 時間のうち 15 時間) （２：７時間）	開講年次	１年次　第２学期

目的：成人期の循環機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる
目標：１．心機能の低下している対象の看護が理解できる。
２．心臓のリズム障害がある対象の看護が理解できる。
３．血液の供給を障害する血管の疾患をもつ対象の看護が理解できる。
４．循環器疾患・障害を持つ対象の治療・処置に対する援助について理解できる。

講義概要 メッセージ	
回	講　義　内　容
1	１．心臓手術を受ける患者の看護 １）開心術 (1) 手術前の看護　(2) 手術後の看護　(3) 回復期の看護 ２．冠動脈バイパス術を受ける患者の看護 １）手術前の看護　２）手術直後の看護　３）回復期の看護
2	３．弁置換術を受ける患者の看護 １）手術前の看護　３）回復期の看護 ２）手術直後の看護 ４．僧房弁弁置換術を受ける患者の事例 １）入院時から手術前の具体的な看護計画 ２）手術直後から CCU 退室までの具体的看護計画 (1) 観察項目 (2) 人工呼吸器管理 (3) スワンガンツルート、輸液ラインの管理 (4) 薬物療法の管理 (5) 心嚢縦隔・胸腔ドレナージの管理 (6) 合併症予防の看護 (7) 疼痛緩和と安全安楽な日常生活援助方法 (8) 精神面の援助 (9) 家族への配慮 ３）CCU 退室後、回復期の具体的看護計画 (1) 観察項目、情報収集項目 (2) 疼痛を緩和し、心負荷をかけない日常生活援助方法 (3) 心負荷をかけない離床の援助 (4) 内服薬の自己管理の指導 (5) 血圧と脈拍及び体重のセルフモニタリングの指導 (6) 心負荷をかけない日常生活動作と運動療法の指導 (7) 食事、水分管理の指導 (8) 感染予防の指導 (9) 精神面の援助
3	５．大血管再建術を受ける患者の看護　６．補助装置を装着した患者の看護 １）手術前の看護 ２）手術直後の看護（ドップラー血流計を用いた観察の実際） ３）回復期の看護
4	終了試験（20 分）　１・２合わせて１時間（45 分）
講義方法	講義
評価方法	筆記試験（100 点満点　45 分、１：50 点　25 分、２：50 点　20 分） 科目評価は成人援助Ⅰ；呼吸機能障害の看護+循環機能障害の看護÷２とする。
テキスト	医学書院：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［3］　循環器 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論 （参考テキスト）学研：Ｎｅｗ看護過程に沿った対症看護 基礎と臨床がつながる疾患別看護過程
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ、疾病と治療Ⅲ（循環器）、成人看護学概論